

令和元年6月21日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05103

研究課題名(和文) 地域と個の「強み」を活かす公衆衛生看護技術の統合と教授法の開発

研究課題名(英文) Development of the Learning Programs/Methods for Public Health Nursing Art to Enhance Strength of Community and Individuals

研究代表者

岡本 玲子 (Okamoto, Reiko)

大阪大学・医学系研究科・教授

研究者番号：60269850

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：2015～2017年度に「公衆衛生看護が関わる地域の強み」と「地域の強みを高める公衆衛生看護技術」についてその枠組みと分類を明らかにし、2017年度にはその技術習得のための3つのナラティブベースのシミュレーション学習プログラムと教育媒体を作成し、介入群と対照群を設けた不等価事前事後評価デザインを用いた保健師を対象とした研修を行った。2018年度は、そのデータを分析し、効果を検証した結果を、学会発表およびワークショップ開催にて公表し、論文作成を行うとともに、論文を投稿、さらに書籍・WEBによる普及を目指した企画と執筆、制作活動を行った(2019年度に公表予定)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現実社会は多様で複雑であり、短期間で重要な局面の経験を積むことが困難なことから、実際の「地域」を想定し繰り返しトレーニングできるシミュレーション学習が求められており、本研究成果はそれに応えるものである。研究成果は、書籍、教材、Webサイト通して普及するため、基礎教育・現任教育を行う機関が活用できる。具体的には、個人ではなく「地域(集団・組織を含む)」「ポピュレーション(特定の人口集団)」を対象とした支援技術の習得を目指す3種類のシナリオベースのシミュレーションプログラム(仮想地域の経験学習型、劇化型、ゲーム型)を開発、効果を検証した。実用性および今後の転用可能性が期待できるものである。

研究成果の概要(英文)：We clarified the framework and classification about "the strength of the area where public health nursing is involved" and "the public health nursing technology which strengthens the strength of the area" in 2015-2017, and three narrative bases for the technology acquisition in 2017. The simulation learning program and the educational medium were created, and training was given to the public health nurse who used the unequal pre-post evaluation design which provided the intervention group and the control group. In fiscal 2018, the data will be analyzed, the results of verification of the effects will be published at academic conference presentations and workshops, and thesis will be made, thesis will be posted, and planning and writing aimed at popularization by books and WEB, Production activities (scheduled to be announced in 2019).

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：公衆衛生看護技術 保健師 保健師教育 ポジティブヘルス シミュレーション 教材 地域の強み
プログラム開発

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

1) 2000年の介護保険制度施行以降、PHN活動の重点は、一次予防、ヘルスプロモーションに移っている。Cowley and Frost (2006)は、保健師実践を支える7つの信念を定義しており、そこにはPositive health(個と地域とともに健康づくりに効果的な社会的・私的資源を最大化) Empowerment(健康に向かう気づきと主体的参加、意思決定を促進) Community partnership and participation(個と地域及び関係職種との協働による能力拡大の機会とアクセスの最大化)が含まれている(カッコ内は定義の要約)。公衆衛生看護の実践においては、よりポジティブヘルスの方向に、個と地域の双方に働きかけ、その強みを高めていく技術の習得が欠かせないと考えられ、この技術の明確化、およびエビデンスに基づく公衆衛生看護の能力開発が急がれる。

2) WHO憲章(1946)の健康の定義においては、健康とは、「単に病気や虚弱でないだけでなく」という負の状態から脱する方向の軸と、「身体的・精神的・社会的に良好な状態」という、より正の方向への軸が示されている。しかし学生がまず病気を見るという特性が先行研究で報告されており、地域で主体的に生活する住民あるいは職場で働き社会を支えている人々を捉える視点は、まず正の状態の理解が重要である。今回、本研究の着想に至ったのは、この現状を打開するためにも、病気ではなく「強み」に着目しそれを活かす公衆衛生看護技術の教育基盤を確固たるものにしなければと考えたからである。

2. 研究の目的

Step 1. 第1段階の研究目的は、公衆衛生看護が関わる地域の強み、即ち、地域の最良の健康というアウトカムに向けてポジティブヘルスを推進する地域の潜在力を概念化することである。Step 2. 第2の研究目的は、地域の強みを高める公衆衛生看護技術を、日本のPHN活動の実際から明らかにすることである。Step 3. 第3の研究目的は、地域の強みを高める公衆衛生看護技術(以下技術)の習得に向けたシミュレーション学習プログラム(以下プログラム)を開発し、その効果を確認することである。

3. 研究の方法

Step 1. 関連24文献から抽出した主題に関する記述内容を分析した。Step 2. 対象は行政機関に常勤で勤める推薦を得た5名の保健師。データは半構造化面接と講演の2回、各々約1時間で収集した。分析には、理論創出するための明示的かつ定式的な質的データ分析法Steps for Coding and Theorizationを用いた。技術の枠組みは、先行研究より協議し、探索Searching、活気づけStimulating、促進Facilitating、協同Cooperation、継続的質改善Continuing Quality Improvement、政策・資源開発Policy/Resource Developmentとした。Step 3. 研究参加者は自治体の保健師64名(介入群34名、対照群30名)であり、偏りのないよう振り分けた。プログラムは技術のうち探索、活気づけ、促進を習得する1日研修であった。研究方法は交互法を用いた準実験デザインであり、介入群にはベースライン(pre)、介入直後(post1)、2週間後(post2)に自記式質問紙調査を行った。対照群には介入群と同様の時間間隔で調査し、終了後に同じプログラムを実施した。アウトカムの測定用具には技術の重要度認識・同自信度認識(以下重要度、自信度) 公衆衛生基本活動遂行尺度(以下BAPH) 保健師の専門性発展力尺度(以下PDS) Reflective Practice Skill(以下RPS) 企画評価にはSimulation Design Scale日本語版(伊藤ら、2015; 以下SDS) プロセス評価にはプログラム満足度(以下満足度)を用いた。アウトカム評価ではpreとpost1、post2各々の変化量を算出し2群の差を比較、企画・プロセス評価にはSDSと満足度得点両者の単相関分析で有意差がみられたSDSの変数について、満足度を従属変数とする重回帰分析を行った。

【倫理審査】国立大学法人 大阪大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会(Step2: 承認番号16392; 2017年01月30日)

国立大学法人 大阪大学医学部附属病院

介入研究倫理審査委員会(Step3: 承認番号17175; 2017年11月13日)

4. 研究成果

Step 1. 【地域の強み】である[先行する住民の状態]として《歴史・風土への愛着》《文化継承・地域創造の信念》《全員大事の価値観》、[住民の状態]としては《連帯・助け合い力》《パートナーシップ形成力》《資源発掘・活用力》《折り合い・統制力》《キャパシティ発展力》《意思決定・組織的推進力》が、[住民の周辺状況]としては《地区組織》《支援体制》《ネットワーク》が抽出された。地域の最良の健康に向けた過程には【気づき】、【結集】が抽出された。今後、これらをもつための効果的な支援方法を明確にしていく必要がある。

Step 2. 分析の結果6つの枠組みに含まれる技術が12カテゴリ、その内訳が26サブカテゴリ抽出された。およびそれらの前提となる規範である社会的公正を構成する3要素が抽出された。本研究によって、技術が、ポピュレーションのポジティブヘルスを推進するという文脈で多面的かつ包括的に収集、精練、構成された。今回抽出された技術は、法律に基づく業務分掌に沿って働いている保健師の特性と、地域を看護する看護職の特徴を包含するものであり、他の職

種とは異なる保健師の専門性を表すものであった。今後の課題は、サブカテゴリレベルでの技術の具現化と、それを習得するプログラムの開発、普及を行うことである。

Step 3 . 全ての調査に回答した介入群 33 名、対照群 30 名を分析対象とした。pre と post1 の変化量は重要度、自信度、BAPH、PDS で有意差がみられた。pre と post2 の全変化量は介入群が多かったが有意差はみられなかった。RPS は全変化量で有意差がみられなかった。企画・プロセス評価では、SDS 全要素の平均値が 100 点換算で 75 点、満足度も 7 点を超えていた。プログラム全体で有意差があった SDS と満足度間の相関関係は、強い順に、目的の理解 / 情報提示、忠実度、問題解決過程の活用、フードバック / リフレクションであった。プログラム全体における重回帰分析の結果、目的の理解 / 情報提示、忠実度が満足度に影響していた。アウトカム評価より、本技術および基本的なコンピテンシーの向上に、本プログラムは効果的であり、企画・プロセス評価より、本プログラムは参加者の学習ニーズに合致し、満足感と技術獲得に寄与することが示唆された。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 3 件)

岡本玲子, 小出恵子, 岩本里織, 合田加代子, 蔭山正子, 塩見美抄, 草野恵美子, 時政舞, 田中美帆 (2019): 公衆衛生看護が関わる地域の強みとは - 文献の分析による概念化 -, 日本公衆衛生看護学会誌, 8(1), 12-22 査読有

〔学会発表〕(計 10 件)

時政舞, 合田加代子, 小出恵子, 蔭山正子, 岩本里織, 草野恵美子, 塩見美抄, 規家美咲, 多田碧樹, 岡本玲子 地域の強みを高める公衆衛生看護技術シミュレーションプログラムの評価 3 - 企画評価と技術認識変化との関連 第 38 回日本看護科学学会学術集会プログラム集 2018 年 12 月 15, 16 日 愛媛 (ひめぎんホール) p124

規家美咲, 合田加代子, 小出恵子, 蔭山正子, 岩本里織, 草野恵美子, 塩見美抄, 時政舞, 多田碧樹, 岡本玲子 地域の強みを高める公衆衛生看護技術シミュレーションプログラムの評価 2 - 企画評価と参加者満足度の関連 第 38 回日本看護科学学会学術集会プログラム集 2018 年 12 月 15, 16 日 愛媛 (ひめぎんホール) p90

多田碧樹, 合田加代子, 小出恵子, 蔭山正子, 岩本里織, 草野恵美子, 塩見美抄, 時政舞, 規家美咲, 岡本玲子 地域の強みを高める公衆衛生看護技術シミュレーションプログラムの評価 1 - 参加者による企画評価と満足度 - 第 38 回日本看護科学学会学術集会プログラム集 2018 年 12 月 15, 16 日 愛媛 (ひめぎんホール) p90

時政舞, 岡本玲子, 合田加代子, 小出恵子, 蔭山正子, 岩本里織, 塩見美抄, 草野恵美子, 羅瑋, 田中美帆, 榊原一恵, 聲高英代 地域の強みを高める公衆衛生看護技術を学ぶシナリオベースのシミュレーション研修プログラムの開発 (2) 第 21 回日本地域看護学会学術集会講演集 2018 年 8 月 12 日 p194

岡本玲子, 合田加代子, 小出恵子, 時政舞, 蔭山正子, 岩本里織, 塩見美抄, 草野恵美子, 羅瑋, 田中美帆, 榊原一恵, 聲高英代 地域の強みを高める公衆衛生看護技術を学ぶシナリオベースのシミュレーション研修プログラムの開発 (1) 第 21 回日本地域看護学会学術集会講演集 2018 年 8 月 12 日 p193

岡本玲子, 合田加代子, 小出恵子, 蔭山正子, 岩本里織, 塩見美抄, 草野恵美子 公衆衛生看護技術の枠組み - 原則に基づく検討 - 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集 2018 年 1 月 6 日 p139

時政舞, 岡本玲子, 蔭山正子, 小出恵子, 塩見美抄, 岩本里織, 合田加代子, 草野恵美子, 羅瑋 地域の強みを高める公衆衛生看護技術 - 実事例での検証 - 第 6 回日本公衆衛生看護学会学術集会講演集 2018 年 1 月 6 日 p137

岡本玲子, 小出恵子, 合田加代子, 岩本里織, 蔭山正子, 塩見美抄, 草野恵美子 PositiveHealth を推進する地域の潜在力を高める公衆衛生看護技術 日本地域看護学会 第 20 回学術集会 2017 年 8 月 5 日 大分 (別府国際コンベンションセンター) p140

岡本玲子, 小出恵子, 岩本里織, 合田加代子 地域の強み「住民の連帯」を高める公衆衛生看護技術 . 第 36 回日本看護科学学会学術集会 2016 年 12 月 10 日 東京 p137

Okamoto, R., Iwamoto, S., Gouda, K., Koide, K., Fukukawa, K. (2016): Positive Health Assets of Communities as Perceived by Public Health Professionals in Japan. The 4th international global network of public health nursing conference, Billund, Denmark, September 19-21.

〔図書〕(計 1 件)

岡本玲子編著 (2019 年度内発刊予定): 地域の強みを高める公衆衛生看護技術 (仮題), 医歯薬出版

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ（計1件）：

<http://www.phnspace.umin.jp/program.html>

6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名：小出 恵子

ローマ字氏名：(KOIDE, Keiko)

所属研究機関名：四天王寺大学

部局名：看護学部

職名：講師

研究者番号：40550215

研究分担者氏名：合田 加代子

ローマ字氏名：(GODA, Kayoko)

所属研究機関名：甲南女子大学

部局名：看護リハビリテーション学部

職名：教授

研究者番号：20353146

研究分担者氏名：岩本 里織

ローマ字氏名：(IWAMOTO, Saori)

所属研究機関名：徳島大学

部局名：大学院医歯薬学研究部

職名：教授

研究者番号：20321276

研究分担者氏名：蔭山 正子

ローマ字氏名：(KAGEYAMA, Masako)

所属研究機関名：大阪大学

部局名：大学院医学系研究科

職名：准教授

研究者番号：80646464

研究分担者氏名：塩見 美抄

ローマ字氏名：(SHIOMI, Misa)

所属研究機関名：兵庫県立大学

部局名：看護学部

職名：准教授

研究者番号：10362766

研究分担者氏名：草野 恵美子

ローマ字氏名：(KUSANO, Emiko)

所属研究機関名：大阪医科大学

部局名：看護学部

職名：准教授

研究者番号：70346419

研究分担者氏名：榊原 一恵

ローマ字氏名：(SAKAKIBARA , Kazue)

所属研究機関名：前甲南女子大学

部局名：看護リハビリテーション学部

職名：准教授

研究者番号：30741615

(2)研究協力者

大阪大学大学院保健学専攻博士課程・院生

研究協力者氏名：時政 舞

ローマ字氏名：(TOKIMASA , Mai)

研究協力者氏名：羅 瑋

ローマ字氏名：(RA , Jyo)

研究協力者氏名：田中 美帆

ローマ字氏名：(TANAKA , Miho)

研究協力者氏名：規家 美咲

ローマ字氏名：(KIYA , Misaki)

研究協力者氏名：多田 碧樹

ローマ字氏名：(TADA , Aoki)

研究協力者氏名：前田 寿美

ローマ字氏名：(MAEDA , Sumi)

研究協力者氏名：太田 博恵

ローマ字氏名：(OTA , Hiroe)

研究協力者氏名：李 猛

ローマ字氏名：(LI , Mou)

大阪大学大学院保健学専攻博士課程・元院生

研究協力者氏名：聲高 英代

ローマ字氏名：(KOEDAKA , Hanayo)